

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会等とともに、新潟国際貿易ターミナルおよび日本海エル・エヌ・ジーの協力を得て、10月31日（火）に新潟市立紫竹山小学校5年生と教員の約90名を対象にコンテナターミナルおよびLNG新潟基地（車窓）の見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【見学会概要】

コンテナターミナルでは、児童は3班に分かれて、①管理棟屋上からコンテナターミナル全景の見学、②会議室にてコンテナターミナル概要説明の受講、③バスにてコンテナターミナル構内の見学、を夫々実施しました。

①管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学

広大な敷地に多くのコンテナが整然と蔵置されていることに驚くとともに、荷役中のコンテナ船を見ることができました。児童は熱心にメモを取りながら、「コンテナターミナルには何本くらいのコンテナがあるの?」「ガントリークレーンの高さは何メートルあるの?」「色によるコンテナの違いは何?」などと質問していました。



②会議室でのコンテナターミナル概要説明

新潟東港国際ターミナル担当者から同港ターミナルの概要（寄港サービスや輸出入先・品目など）や輸出入の流れなどについて、動画も活用しながら説明が行われました。特にガントリークレーンを実際に操作している動画では、ビル10階相当の高い場所から正確にコンテナを積み下ろしている作業員の姿に児童は驚いている様子でした。



③バスでのコンテナターミナル構内見学

コンテナ船に巨大なガントリークレーンで荷役をしている迫力のある様子やストラドルキャリアがトラックにコンテナを積み込む様子を間近で見ると、普段立ち入ることができないエリアで貴重な経験をすることができました。また、温度調節が出来るリーファーコンテナなど様々な種類のコンテナがあることなどを知ることができました。



コンテナターミナル見学後は、客船も寄港する木材埠頭やリーファーコンテナで輸入した魚すり身を加工する蒲鉾工場などを見ながら日本海 LNG 新潟基地に向かいました。同基地では、車窓から巨大な LNG タンク等を見学し、日頃何気なく利用している電気やガスの元となる LNG は外国から船で輸入されていることを学びました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。